

この冊子の目的と使い方

(教師・保護者のみなさまへ)

「こども環境白書2016」は、子供も大人も、みんながESD^{*}の視点から気付き、考え、行動を変えていくためのツールです。

ESDとは、世界の人々や、地球上の生き物、そしてこれから先の未来のことも考えて、みんなが幸せに暮らしていける地球にしていけるために、**私たち一人ひとりが気付き、主体となることができることを考え、行動するための学び**です。そして、ESDでは、学校教育だけでなく、日常の経験、家庭、職場、遊びなど、“すべての場が学びの場”となります。また、子供からお年寄りまでの“すべての人が学ぶ人”となります。

本冊子には、自ら「気付く」ためのきっかけが多く含まれています。「気付く」ことで、自ら考えて「行動」ができるようになります。環境だけではなく、開発、平和、国際理解等、文化面や社会面も含めて、持続可能な社会を構築できるよう、**私たち一人ひとりの行動を見直して変えていくことがESDの目的であり、そのために本冊子をお役立てください。**

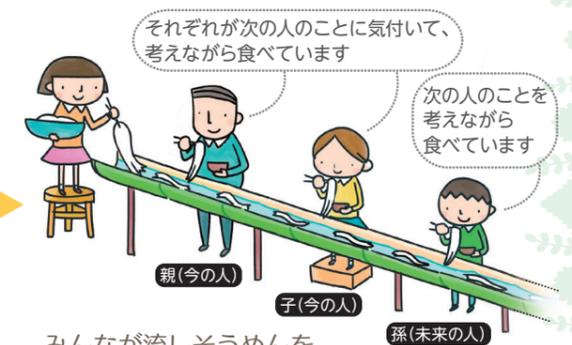
※ESDはEducation for Sustainable Development(持続可能な開発のための教育)の略称です。

ESDによって変わる 一人ひとりの行動

流しそうめんを例えると・・・



ESDによる行動の変化



みんなが流しそうめんを食べられる社会をつくるのが、「持続可能な開発」です。

ESDの視点で捉える (持続可能な社会で大切なことを理解する) - 捉え方の例 -

多様性 いろいろある



自然・文化・社会・経済は、多種多様な事物から成り立っています。そうした多様性を尊重するとともに、事物・現象を多面的に見たり考えたりすることが大切です。

相互性 関わり合っている



自然・文化・社会・経済は、互いに働き掛け合うシステムであり、人もそれらとつながりをもち、人同士も関わり合っ互いに作用していることを認識することが大切です。

有限性 限りがある



自然・文化・社会・経済を成り立たせている環境要因や資源は有限であり、それらに支えられた社会発展には限界があることを知るとともに、将来世代のために有効に使用していくことが大切です。

公平性 一人ひとり大切に



持続可能な社会の基盤は、一人ひとりの人権や生命が尊重されることです。権利の保障や恩恵の享受は公平である必要があり、地域や世代を超えて保持されることが大切です。

連携性 力を合わせて



持続可能な社会の構築・維持には、多様な主体の連携・協力が不可欠であり、意見や立場が違っていても、適宜順応・調和を図りながら、互いに協力して問題を解決していくことが大切です。

責任性 責任をもって



持続可能な社会を構築するためには、一人ひとりが責任と義務を自覚し、望ましい将来像に対する責任あるビジョンを持って、他人任せにせず自ら進んで行動することが大切です。

ESDの視点で工夫する (問題解決に必要な能力・態度を身に付ける) - 工夫の例 -

批判 批判的に考える力



合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力。

未来 未来像を予測して計画を立てる力



過去や現在に基づき、あるべき未来像(ビジョン)を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力。

多面 多面的、総合的に考える力



人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり(システム)を理解し、それらを多面的、総合的に考える力。

伝達 コミュニケーションを行う力



自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力。

協力 他者と協力する態度



他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度。

関連 つながりを尊重する態度



人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度。

参加 進んで参加する態度



集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度。